

弾丸の当たる 最前線で スクラムを組み 有事を救います!

STOP 危険

WARNING

様式第118号(刑訴法第259条, 規程第76条)

不起訴処分告知書

令和6年12月5日

被疑者 佐賀 豊
上記弁護人 弁護士 〇〇 殿

東京区検察庁
検察官 副検事 〇〇

貴殿の請求により下記のとおり告知します。

記
被疑者佐賀 豊に対する傷害被疑事件については、令和6年11月11日公訴を提起しない処分をしました。

令和 5年検第 〇〇 号

WARNING

労使相愛を実現する会

～伝説の社労士事務所と呼ばれたい～

社会保険労務士法人 佐賀事務所
株式会社 佐賀人事総研
TEL.03-5249-3326

2025 January
1月号
第79号

巳年

1 労働ゴロとの対決!! 2 3つのアクションで、人生を変える! 3 自分を変える! 人生を動かす! 4 弾丸の当たる最前線でスクラムを組み有事を救います!

発行元: 社会保険労務士法人 佐賀事務所 株式会社 佐賀人事総研 赤羽の社労士ブログ <https://ameblo.jp/saga-sr/>

ブログ更新
累積回数 4335回 断酒してから 2326日 断煙してから 7074日

皆様、いつもお世話になっております。

労働ゴロ(プレカリアートユニオン「以下、奴らと呼ぶ」)との対決!!

おかげさまで無事、不起訴処分を勝ち取ることができました。ご心配をおかけした顧問先企業各位ならびに読者の皆さま方へ、新年1月号で吉報をお届けすることができて本当に嬉しく思っております。

国家資格者である社会保険労務士が「被疑者」と呼ばれること自体、苦々しく不名誉と評価される方もいるかもしれませんが、私は決して<開き直るわけでもなく>純粹に名誉であり、誇らしいと自分を評価しています。**自己保身など図らず、顧問先企業の名代となって奴らと真正面から組み合い対決できるサムライは私しかいないでしょう。唯一無二の存在になることが、最上の価値提供になる!**

上から目線でも斜めから目線でもなく、堂々目線で正直な心境をありのままに語っています。

警察は正義を守るというよりも面倒を嫌い、リスクを避ける非常に安易で安直な組織であることも学びました。ちょっと言い過ぎかもしれませんが、正義の味方というよりうるさ型の側に立つ組織……。気を許す相手を選ばないと大変なことになります。有事のときに匙を投げ出し頼りにならないサムライは論外としても、刑事事件ではその筋の専門のサムライを選任する必要があります。最初に託したサムライを早い段階でスイッチしていなければ、結果は180度違っていたに違いありません。引き潮のときに人は去るのが常道であることは、すでに学習済みの真理。そうであれば、常に潮が満ちている状態を維持して別の本性は出させないようにするのが一番ですね。

奴らと対峙する戦い方に私の戦術ミスはなかったか? 自分を客観視して反省することは心理的な抵抗感が強いですが、プロとして大切です。奴らは左でも右でもなく、単なる守銭奴。労働組合法というマイナーな法律をかじっているだけの労働ゴロなのです。欲しがる希望額の7割提示ですんなりと解決でき

たでしょう。

「奴ら相手に時間と費用をかけるなんて馬鹿馬鹿しい。さっさと支払って終わりにするのが賢明です!」顧問という立場で、そのように強く説得することも当然可能です。私のうがった信条で7割提示の選択肢を勝手に排除したり、自分よがりに顧問先を導くことはしません。

私は山本五十六大将と同じ。<頭ごなしに真っ向から対決に反対することはしませんが>暴れて欲しいのであれば命の限りに! というスタンスです。最高経営責任者とは、スクラムを組む相手を強く求めているもの。戦わずしての敵前逃亡で真の納得をする方を、私は見たことがありません。



「事務所の命運」は顧問先企業の評価に懸かっている! 私はこちらと思っています。高評価をいただくために価値提供力を高めて、私の「進言や助言」が心に響くよう経験値を上げて専門性を研鑽してまいります。2025年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

被疑者の称号を授かった奴らのYouTube動画です! 是非ご覧ください。
<https://www.youtube.com/watch?v=OCtdwBejSfc>

今月も「充実」を合言葉に、マイベストペースで飛ばして行きます!

佐賀 豊



3つのアクションで、人生を変える! 自分を変える! 人生を動かす!

自分の人生を変えたい、あるいは自分自身を変えたい。誰でもそう考えることがあるでしょう。今月は「人生や自分を変えるには」がテーマです。

1 2 3 人生が動く契機となるアクションは3つある

自分の人生を変えたい、あるいは自分自身を変えたい。これは、人生が動く契機となるアクションと言い換えることもできます。52歳を迎えたいま、私は人生や自分が変わる、**人生が動く契機となるアクションには3つのポイントある**と思っています。

1 2 3 大学のヨット部で時間の使い方を強制的に変えさせられた

まず、**ひとつめは「時間の使い方を変えること」**。私は高校3年生まで朝、全然起きられませんでした。以前も書きましたが、高校3年間で100回くらい遅刻しました。部活の朝練がある時以外は、決められた時間に行くことができませんでした。先生からは大学への推薦を出さないと言われました。いまでも通信簿が残っていますが、目も当てられないようなことが書かれていて恥ずかしいかぎりです。

しかし大学生となり、体育会系のヨット部に勧誘され、騙されて入部したのです。そこからは否が応でも時間の使い方を強制的に変えさせられました。葉山で監禁されたような生活が始まったのです。まさに戸塚ヨットスクールのような我が大東大ヨット部でした。

1 2 3 ヨット部の合宿所では1年生は4時半起床

ヨット部では年間130日間くらい、葉山の合宿所での生活を強いられました。合宿所では、1年生は食事当番があるので4時半起床です。食事当番以外の1年生は5時起床。2年生になっても5時半。3年生、4年生で30分ずつ遅くなりますが、4年生でも6時半です。このように起床時間がガラッと変わりました。



大学生というとお酒を飲んだり、コンパで遊ぶというイメージがあります。実際、そういう経験もたくさんしましたが、年間130日間の合宿所暮らしでなので、部員の半数は留年するような状態でした。私は幸いにして留年することなく卒業できましたが。

1 2 3 社会人になっても朝いちばんの出勤を続けた

私は大学生時代、時間の使い方を変えたというよりも強制的に変えさせられたのです。ただし、**この経験はその後の人生を変える契機になりました。社会人になった時、私はいつもいちばんに出社しました。朝7時にならないとオフィスのあるビルはカギが開かず、中に入ることはできません。私は7時より前に着いて、10分くらい待つことがよくありました。**

私はいちばんでビルに入り、いちばんで仕事に取りかかりました。ヨット部では4年生になると6時半起床でいいのですが、私は1年生と一緒に起きていました。誰よりも早く起きることで、気分的にも優位に立つ。その時間を使って自主的に練習量を多くする。社会人になっても、それと同じ要領で朝いちばんの出社を続けました。

1 2 3 「あの時に自分の人生が動いた。時間の使い方が変わった」

社会人になっても新卒なので、みんなと同じ時間で自分の担当の仕事がこなせるか、わかりません。自信がないわけではありませんが、まだ海のものとも山のものともわからず、あまり自信を持つことはできません。**人より先行するには、少なくとも人が休んでいる時間、寝ているであろう時間、まだアクションを起こしてない時間から、いち早く動く。**これができたのもヨット部で朝早く起床せざるを得なかったこと、時間の使い方を強制的に変えさせられたおかげです。

いまは平成36年なので、それから33年経ちます。今朝も4時台に起きましたが、「あの時に自分の人生が動いたな。時間の使い方が変わったな」と思っています。

1 2 3 ヨット部で朝早く起きるようになったことは、いまの朝トレにつながっている

時間の使い方の質を変えるのは難しいかもしれませんが、とにかく朝早く起きることが重要だと思います。労働基準法では午後10時から翌朝5時までの労働には割増賃金を支払うことが義務づけられています。私は最近、これを企業に対する「人が寝る時間に従業員を働かせていること」への金銭的な罰かもしれないと感じています。なぜなら、午後10時から朝5時は家でくつろぐ時間、睡眠の時間だと思うからです。

人それぞれに自分のサイクルがあるので、あまり押しつけがましく主張すると抵抗を感じる人もいるかもしれませんが、これは私の事務所通信なので自分が思うことを書かせていただきます。時間の使い方次第で人生が動く契機になります。ヨット部に入部して朝早く起きるようになったことは、いまでも朝トレを続けていることにつながっています。

1 2 3 自宅兼事務所をやめて赤羽に事務所を構えた

次が「**業を営む場所を変えること**」です。社労士として独立開業してから9年間、私は自宅兼事務所業を営んでいました。そして、11年前に川口の自宅兼事務所から赤羽に事務所を移しました。自宅とは「ただいま」と言って、安らぎの時間にチェンジする場所です。仕事場とくつろぐ場が同じでは、たとえ1階と2階でそれが分かれています。空間がひとつというのはあまりよくなかったなと思います。11年前に働く場所を自宅兼から事務所オンリーにしていなければ、じり貧どころか、もしかしたら業として存続できなかったかもしれないとも思います。

自宅は駅前ではないので、人が訪ねて来るのにも不便です。また、人が来てくれたとしても2階がくつろぐ場であると、働く気が削がれる心配があります。

1 2 3 自慢の家は最高のくつろぎの場になっている

業を営む場所を変えることも重要です。ただ、私は川口の自宅をとて気に入っています。何がいいのか。8年間、更地であったことです。私は自宅を建てるにあたり更地を探していました。できれば3年以上、長ければ長いほどいい。これは上物を壊して建てるのはよくないと風水の先生から教わったからです。この教えを愚直に守りましたが、東南の角地で「こんな土地がよくずっと駐車場になっていたな」と思いました。いまでも私の自慢の家で、最高のくつろぎの場になっています。

1 2 3 自宅兼事務所だから子育てを手伝うことができた……

9年ほど自宅兼事務所業を営みました。妻は、3人の子育てができたのは自宅にいる私がいろいろ手伝ってくれたからと誇ってくれます。そう言ってもらえることは救いですが、業に関してはこの9年間は出だしを鈍らせたのかなとも感じています。

もっとも、自分より大切な存在である子供がもしいなければ、業を頑張れなかったかもしれません。そう考えると、人間いいとこ取りばかりはできないのでしょう。トータルで人生を考えることも必要ですが、業を営む場所を変えるということも重要になります。

1 2 3 「付き合う人を変えること」は一筋縄ではいかない

3つめは「付き合う人を変えるということ」。ただし、付き合う人を変えよう、たとえば一部上場企業の社長としか付き合えないと言っても、そうは問屋がよろしません。自分のレベルが高みに達していないと、自分が付き合いたいと思う人と付き合うことはできません。付き合う人を変えることは、一筋縄ではいかないのです。**自分のランクに見合った人が自分のまわりには集うのです。**

顧問先に関しても同じかもしれません。開業して20年間、ずっとお付き合いいただいている方もいますから誤解があってはいいませんが、赤羽に事務所を移してから付き合う先のレベルが自宅兼でやっていた時よりも段違いに高くなった気がします。

1 2 3 自分を客観視して人徳、仕事力、振る舞いを変えていく

スタッフに関しても同様です。**自分のレベル、人徳、仕事力、経済力、それらが上がっていかないと優秀で性格のいい、生産性の高い方は集まらないと思います。**よく従業員に関して嘆く経営者がいます。私にも嘆きたい時がありますが、そんな時はまわりを見渡すだけではなく、自分を

客観視すべきです。自分に求められる改善点、たとえばマネジメントの手法、仕事に向き合う姿勢や態度、考え方、お客様との接し方、電話一本にしろ、そうしたことに気を配らないと自分が求めるスタッフは集まらないでしょう。自分を助けてくれるステークホルダー、利害関係者も同じです。

付き合う人を変えたいのであれば、自分の人徳、仕事力、振る舞いを変える必要があります。人生や自分を変えるには、人生を動かすには、時間の使い方を変えるべし。業を営む場所を変える。つき合う人を変える。これ以外にないのかなと考えます。

1 2 3 良い予感の外れることが多いが、悪い予感は当たる

もうひとつ、「直感と違和感」について綴らせていただきます。昨年10月と11月で私は約60件の面接をしました。「さよならはただちに、決めるのはゆっくり」というポリシーで面接を行い、その経験を通してある答えにたどり着きました。

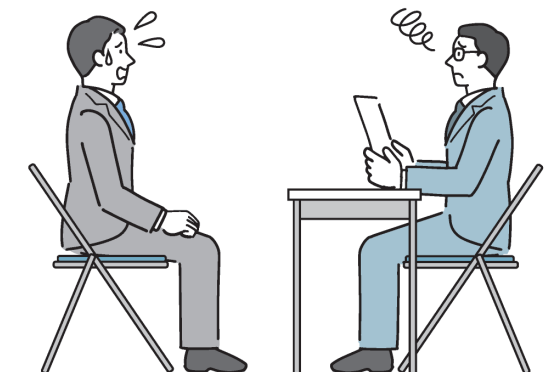
面接において私は、直感を当てにしないようにしています。直感とは良い予感です。「この人はいいかもしれない」、これが良い予感です。ところが、こうした予感は往々にして外れます。一方、違和感「この人はちょっと危ないな。違うな」という悪い予感です。この違和感はずすと書いていいほど当たります。違和感を無視して採用してはいけません。

1 2 3 面接では良い予感にまよつぱと考へ、悪い予感にフォーカスする

なぜなのか。**良い予感には他人に対する期待が入っています。他人は信用するものではあっても期待してはいけません。私は思っています。やみくもに信用するのはダメですが、信用できないと嘆くよりも信用できるなら素直に信用すべきです。ただし、期待してはいけません。**

違和感とは基本的にはマイナスの予感です。期待があるわけではありません。だから、当たるのかなと思います。なので人と接する時、**特に面接では良い予感に期待値が入っているので、その期待はまよつぱと考へる。違和感、悪い予感には顔をそむけないで、その悪い予感にしっかりとフォーカスする。**私はこれを肝に銘じています。

人は信頼してもいいけれど、期待してはいけません……。頭でわかっていても、まだまだ無意識の世界には太刀打ちできない自分が存在するのも、残念ながら事実です。



期待しないで悪い予感にフォーカス